

国際ロータリー第2610地区

第61年度 D.2610 ROTARY CLUB OF KOMATSU



小松ロータリークラブ会報



2015～2016年度 国際ロータリーテーマ

世界へのプレゼントになろう
Be a gift to the world

- ◆会 長：上杉 豊明
- ◆会長エレクト：杉本 雅規
- ◆幹 事：徳田八十吉
- ◆副 会 長：橋浦 隆

事務局 〒923-0957 石川県小松市本折町33 小松グランドホテル2F TEL.0761-24-1340・FAX.0761-24-4700
E-mail:office@komatsu-rc.jp URL:http://komatsu-rc.jp/



全国植樹祭 2015年5月に開催

木場潟公園主会場より撮影 平成25年5月8日：小林 朋子

ごあいさつ

小松ロータリークラブ

2015～2016年度 会長 上杉 豊明



新年度を迎えて、あれやこれやと慌しい日々を重ねてきました。気がつけばはや、初秋の足音がそこ彼方に。

さて古い話で恐縮ですが、ちょっと聞いていただけますか。たしか小学校5年生の頃だったでしょうか。どちらかというとマイペースで、のんびりタイプの某少年。さほど好奇心旺盛という訳ではないのですが、一つ興にのると止まらない、という厄介な性格。その彼が何を思ったのか、溜らなく暑い或る夏の午後、面倒臭がる母親に無理強いをして、大風呂敷二枚を縫い合わせて完成させた見事なテント、それと懐中電灯改造の自慢のランプ。半ば呆れ返っている家族を尻目に、それらを近くの原っぱに引っ張り出して、格闘すること数時間。立派に立ち上げたテントが、これから始まる冒険の旅のファンファーレを告げていました。某少年は、今こそインディー・ジョーンズになろうとしていたのです。

そしてその夜、何百匹、何千匹もの蚊や得体の知れぬ物音や唸り声と独り戦いながら夜を徹して読み明かしたのは、フランスの作家、ジュール・ヴェルヌの名作「十五少年漂流記」でした。

さて、その後、某少年は成長し、大人になりました。あの時、異様な形で体験した一夜の「漂流」は、彼の人生のあの時、あの場を離れ、まるで付き人のように彼と共に成長しながら、ひかり輝く宝石のような航跡を残して、彼方の岸を恋慕する一艘の船になったのです。はじまったら、おわらないものはありません。いずれ人は誰でも自分の人生を完結させます。そのための道しるべも魔法も、時としての悲劇も喜劇も、善きも悪きも、みなこの航跡の中にちりばめながら、やがて錆となり、色褪せ、しおれ、枯れ、そして塵となっていきます。

しかし、もし時間をかけて我が60年の軌跡と鳥瞰すれば、この舟は今も勇猛に大海原を駆け、無数の歴史を編みながら、それぞれがそれぞれの人生の漕ぎ手となって、あの名作「十五少年漂流記」のように大海に挑む冒険者となって映るのです。迎える創立60周年事業が、冒険者たる会員諸氏の力強いかいなによって、見事達成されるように力を合わせていきたいと思います。